

項目	入力欄
科目名	教養演習
教員名	山崎 暁彦
授業概要とねらい	<p>【テーマ】 ゼミ入門、法学入門 【概要】 本演習では、新入生を対象に、大学で能動的に学習していくために必要な作法・知識を習得していきます。 大学生になると、これまでの受講スタイル(講義形式)とは異なり、自ら調べ、報告する、あるいは、他者の報告に関して討論するといった主体的な作業が求められる「演習(ゼミ)形式」の授業が始まります。本演習では、講義形式の科目と並行して、とくに、演習形式での学習の手助けとなる、プレゼンテーションとディベートの方法等を実践のかたちで学習していきます。同時に、これから学習していく「法学」の世界を垣間見ていって欲しいと思います。</p>
望ましい水準	今後、演習形式の授業で必要となる、プレゼンテーション・ディベート等に関わる最低限の技術を習得すること。
授業計画	<p>毎回、複数名の報告(兼司会)者を決め、レジュメ(およびその他のプレゼンテーションの技術)を用いて、毎回のテーマにつき、報告をしてもらいます。その後、報告の担当でない者も含め全体で、その報告について、討論を行うことで演習を進めていきます。 初回は、ガイダンス、顔合わせ後、第2回以降の報告の分担を決めます。 第2回以降は、大学の情報講座を受けたり、種々の文献購読を中心に、大学の講義の受講方法、法学や広く社会科学(種々の社会問題など)に関わるテーマについてのプレゼンテーション・ディベートを、段階的に進めていきます。後期には、自由報告のかたちで、報告者(報告班)自らが報告のテーマを探し、そのプレゼンテーション・ディベートの優劣を競う、といったことをしてもらいます。</p>
教材・教科書	適宜、コピーを配布します。
参考図書	なし
参考URL	http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/oho/oho.html
授業以外の学習	自らの報告の準備等を行うこと。
成績評価の方法	試験は行いません。出席状況、報告内容、討論への参加度等を総合的に評価します。
成績評価の基準	(教室外での)実習は、とくに考えていないので、本演習での評価においては、(教室内の)討論のなかで、自分の知識をきちんとアウトプットしようとしているかを重視します。演習形式では、発言する者が一部に偏ったり、徒に自らの主義主張を押しただけになってしまう傾向も、まみ見受けられますが、自分の報告を通して意見を明らかにしたり、内在的・外在的な議論の意味を理解して、討論の場を作るとうとするような姿勢にも積極的な評価をします。
オフィスアワー	追って指示します。
留意点・注意事項	なし
その他	教養演習は、これから、大学でともに学んでいく者の「親睦の場」でもあります。直接、こちらから働きかけをすることはありませんが、ゼミの内外を問わず、自主的な交流が生まれていくことを期待します。
ディプロマポリシー大区分1	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分1	問題発見・調査・解読能力(行政政策学類)
ディプロマポリシー大区分2	行政政策学類のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分2	表現力・コミュニケーション能力(行政政策学類)
ディプロマポリシー大区分3	
ディプロマポリシー小区分3	
ディプロマポリシー大区分4	
ディプロマポリシー小区分4	
ディプロマポリシー大区分5	
ディプロマポリシー小区分5	
ディプロマポリシー大区分6	
ディプロマポリシー小区分6	
ディプロマポリシー大区分7	
ディプロマポリシー小区分7	
ディプロマポリシー大区分8	
ディプロマポリシー小区分8	
ディプロマポリシー大区分9	
ディプロマポリシー小区分9	
ディプロマポリシー大区分10	
ディプロマポリシー小区分10	
ディプロマポリシーその他	